



東芝希望小学校の開校式(大連)

重要なテーマである地球温暖化の防止では、省エネ製品の開発、工場での省エネの取り組みなどさまざまな活動をしているが、とくにエネルギー機器の供給者として、火力発電の効率化や原子力事業の拡大、新エネルギーの開発など力を入れている。

子どもたちの教育を支援

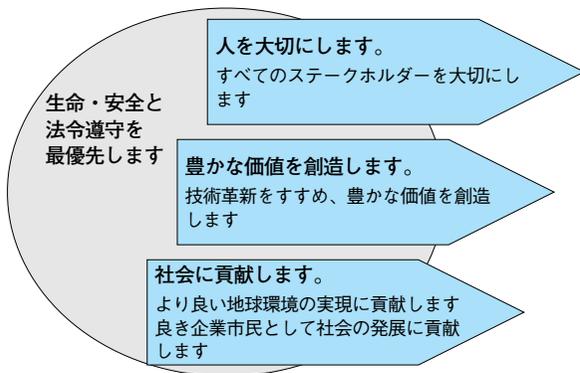
東芝グループは、世界各国の事業拠点でそれぞれの地域のニーズに応じて、積極的に社会貢献活動を行っている。毎年、創立記念日である七月一日の前後二カ月間を社会貢献活動の統一キャンペーン期間とし、各拠点で一斉に活動を展開している。二〇〇五年は全世界で九六社、二万人が参加した。CSR大会では、これらの中から、顕著な成果やユニークな活動を行った一六グループを選び、社長表彰を行った。

社会貢献では、とくに子どもたちの教育への支援に重点を置き、国内外で取り組んでいる。近年生産拠点が増え従業員数が急増している中国や東南アジアでは、貧困により子ども

たちが満足に教育を受けられない地域も多い。そのため、グループ会社や従業員がさまざまな形で子どもたちの教育への支援を行っている。六〇の拠点を有し、従業員数が二万人を数える中国では、二〇〇〇年より子どもたちに教育の機会を与える「東芝希望小学校」の設立活動を続けている。これまでに一一校を建設し、七五〇〇人の子どもたちに教育の場を提供している。今後も毎年二校ずつ建設していく計画である。このような活動が評価され、二〇〇四年・二〇〇五年と連続で、中国共産党の全国的総合紙「光明日報」から、社会貢献に熱心な外国企業として「光明公益獎」を受賞した。

中国のほか、インドネシアやタイ、カンボジア、フィリピンなどのアジア地域でも、グ

東芝グループのCSR活動の柱



ループの従業員が、子どもたちの学資の支援、教材・機器の寄贈、校舎の建設や修理への協力などを行い、より良い教育環境づくりに貢献している。

地域やNPOとも

一方、国内では、とくに科学技術教育と自然環境保護に重点を置いて活動を行っている。神奈川県の川崎にある東芝科学館では、NPOと連携して小学生を対象に科学や環境についての体験実験教室を実施している。また同じく川崎にある研究開発センターでは、地域とのコミュニケーション活動の一環として、従業員が地域の小中学校を訪れ、環境授業を行っている。それがきっかけとなり、中学生と共同で研究所の環境報告書を作成、これが環境報告書のコンクールで優秀賞を受賞している。

また、NPOとの協働により親子で自然を体験するイベントや、自然観察指導員の育成などを行っており、多くの参加を得ている。昨年七月には、静岡県御殿場に「東芝の森」を開設し、子どもたちや従業員が自然と触れ合う新しい場も提供している。

東芝グループは、「人と、地球の、明日のために。」のスローガンに示されるように、次代をなう「子どもたちの未来が、安心で笑顔あふれる社会」であるために、今後も支援を続けていく。

「人と、地球の、明日のために。」

〜東芝グループのCSR活動〜

東芝CSR本部CSR担当部長

鶴田啓之
つるた ひろゆき



「地球内企業」として
信頼される企業グループに

昨年十二月に、国内外からグループ会社
トップやCSR推進責任者、労働組合代表な
ど五〇〇人を集め、第一回東芝グループCS
R大会を開催した。そこで社長の西田は、「す
べての事業活動において、生命・安全、法令
遵守を最優先する」という行動原則を強調し、
コンプライアンスの徹底をあらためて指示す
るとともに、「『地球内企業』として社会から
信頼される」ことを訴えた。

「地球内企業」は耳慣れない言葉であるが、
これが東芝グループのCSR活動のキーワー
ドとなっている。

「地球内企業」には二つの意味を込めている。
一つは地球に存在する企業として、より良い地
球環境の実現に先導的な役割を果たし、持続
可能な社会づくりに貢献していくこと。もう
一つは、世界で事業を展開している企業として、
それぞれの地域の文化や慣習を尊重しながら

活動し、地域社会に貢献していくことである。

東芝グループのCSR活動は、「生命・安
全、法令遵守を最優先する」ことを第一の行
動原則としたうえで、経営理念に掲げた「人
を大切にします」、「豊かな価値を創造しま
す」、「社会に貢献します」を誠実に実践して
いくことであると考えている。世界四〇〇社
でグローバルにCSR活動を展開するともに
に、グループ一七万人の従業員一人一人の日
常活動の中に定着していくことに重点を置き、
さまざまな取り組みを進めている。

紙幅の制約もあり、ここでは、「地球内企
業」としての二つの側面に絞って、東芝グル
ープのCSR活動を紹介する。

**すべての製品、
すべての事業プロセスで環境に配慮**

「かけがえない地球環境」を、健全な状
態で次世代に引き継いでいくことは、現存す
る人間の基本的責務である」という認識にた

ち、東芝グループは一体となって環境保全へ
の取り組みを進めている。すべての製品、す
べての事業プロセスにおいて、環境への配慮
を貫く「環境経営」の徹底を図っている。

環境経営のめざすものとして、「製品の環
境効率」と「事業プロセスの環境効率」を合
わせた東芝グループ全体の「総合環境効率」
を二〇一〇年度には二〇〇〇年度に対し二倍
にするという「東芝グループ環境ビジョン二
〇一〇」を定めている。

それを達成するための行動計画である「第
四次環境ポランタリープラン」では、環境調
和型製品の創出、地球温暖化防止、化学物質
の管理、資源の有効活用などの分野において
目標を掲げ、国内外のすべてのグループ会社
で取り組んでいる。

環境調和型製品の開発では、「ファクター
T」という独自の指標を取り入れ、環境負荷
の低減と製品価値の向上の両面から製品の環
境効率を評価し、開発の加速と対象製品の拡
大を図っている。